2011年タコ

単位：数量，1000トン、価格，円／kg

	数量						価格				輸入国							
年	漁獲	産地	輸入	東京	消費支出生(ｸﾞﾗﾑ)	在庫	産地	輸入	東京	消費支出生(円)	モロッコ	モーリタニア	セネガル	タイ	スペイン	ベトナム	中国	メキシコ
22	40.3	6.2	44.7	11.6	832	18.5	337	573	695	1,341	10.8	16.2	1.2	1.0	1.8	3.4	9.4	0.1
23	30.3	3.5	38.4	8.3	679	12.2	481	734	898	1,204	5.3	13.6	1.6	1.2	1.9	3.6	9.3	0.3
%	75	56	86	71	82	66	143	128	129	90	49	84	141	122	106	105	98	293

輸入の動向

23年の輸入量は3.8万トンで前年（4.5万トン）を下回った。これは主力の西アフリカ物（モーリタニア、モロッコ）の減少を反映したものである。

本年の西アフリカでの漁は、モロッコでのトロールの漁獲枠が1万トンで前年の1.2万トントンをやや下回り、その配分は、船凍6,300ン（前年：7,560トン）、氷蔵船1,100トン（前年:1,320トン）、ダクラ陸凍壺2,600トン（前年：3,120トン）であった。夏ダコ漁は６月20日と前年より10日早い解禁となった。漁期は９月末までの期間であった。枠の減少とアソートも小型が１/３程度で大型主体であり、漁自体も１次航海は１トン以下、２次航海も時化も多く2，3，4，5番と大型が多く、品質的にも今一歩であった。冬ダコ漁は不漁で北部漁場は６番以下１割程度と少なく、本年も成長が早く大型組成で始まり、大型が多かったのが特徴でＥＵからの買いも多く、サイズ的にも日本向けは少なかった。漁自体も低調な漁に終わった。

モーリタニアの冬ダコ漁は前年の11月に壺が解禁（漁期：5月15日まで）になったが、不漁のまま年を越し、船凍や氷蔵船のトロール漁も４月末まで漁が続いた。何れの漁も低調（陸凍で10トン/１日）で前年を大幅に下回った。サイズは3番から8番。モーリタニアの夏タコ漁は壺漁が６月15日解禁。トロール船凍と氷蔵船は５，６月の２ヶ月の休漁で、７月１日解禁であった。漁は壺漁が開始の１週間は１日80トン台だったが、直ぐに50トン台、その後は20トン台と漁獲は落ちたが、昨年よりは当初好調であった。アソートは5番主体に、6番、4番であった。トロールは前年並みで良くもなく悪くもない漁であった。

市況は、冬ダコ、夏ダコ漁とも予想以上に低調な漁となったこと特にモロッコは冬、夏漁とも低調であり、またＥＵによる大型サイズの買い付けもあり、一部買い負け現象も上半期にみられた。したがって、輸入価格、消費地価格とも前年をかなり上回った。

輸入国は、昨年に続いてモーリタニアが35%で前年（36%）を下回り、モロッコも14％（前年：24%）でモロッコの減少が目立った。中国が24%で前年（21%）を大きく上回りモロッコを抜いた。続いて、ベトナム、セネガル、スペイン、タイとなっている。メキシコも原魚の高騰もあり、大半はEUに流れ、本年も日本への搬入は少なかった。

輸入価格は、734円と買付価格の上昇を受けて前年（573円）を上回った。

また本年もマダコ、ミズダコ、ヤナギタコ等、国内外のタコ類の供給があったが、国内産タコ類も震災の影響もあって生産が落ちたこともあり、総じて堅調な価格推移となった。

在　庫　量

本年の平均在庫量は、1.2万トンと前年（1.8万トン）をかなり下回った。

越年在庫は1.2万トンで前年（1.6万トン）をかなり下回り、近年では最も少ない在庫を今年も更新した。現在既にタコの価格は天井値に近い形となっており、これ以上の価格の上昇は更なるマーケット崩壊につながることから、これ以上の製品値上げは困難とみられる。

消費地入荷量と価格

23年の東京の入荷量は、0.8万トンで輸入量の減少を反映し、前年（1.2万トン）を下回り、消費地での取扱いも再度減少した。

本年も末端マーケットでは価格の上昇もあって特売もほとんどみられなかった。

家庭消費支出は、末端単価も高かったこともあって数量、金額ともに伸びはみられず、今年も引続き減少した。

東京の価格は、898円で前年（695円）をかなり上回り、価格の上昇も目立ち輸入価格の上昇を反映した格好となった。